



# 「世界で最も生活費の高い都市」 シンガポールの物価事情

たま  
玉井

さとし  
諭

●UNIグローバルユニオンアジア太平洋地域組織  
キャンペーン・組織化担当ディレクター 在シンガポール

全国繊維化学食品流通サービス一般労働組合同盟（UAゼンセン）からシンガポールにあるUNIグローバルユニオンアジア太平洋地域組織（UNI Apro）事務所に派遣され1年余りが過ぎた。日本からの出張者や自分が出張した際によく尋ねられる質問の一つが、「シンガポールでの生活はどうか？」である。そして、それに対する私のお決まりの答えは「物価が高くて大変です」となる。

英誌「エコノミスト」の調査部門EIUが毎年3月に発表する「世界で最も生活費の高い都市」の2014年度ランキングで、シンガポールは世界131都市の中1位となった。シンガポールの指数は130（基準値：ニューヨークの100）。これは生活費がニューヨークより30%高いことを意味する。

シンガポールを首位に押し上げた要因は、車、アルコール、タバコで、特に、車は当地では所有にかかる費用が高いものの代名詞的存在となっている。車体価格に輸入車税、道路税、保険に加え、政府が車の台数を管理するために導入している

「車を買う権利（COE）」を公開入札で購入しなければならない。COEはこの半年、排気量1,600CC未満の場合、S\$62,000～66,000（約560万～600万円）の間で推移してる。日産マーチなどの日本の小型車クラスで、新車が最終的には1,000万円程

度となる。街中でよく見かけるベンツやBMWなどは3,000万円はするであろう。

アルコールとタバコも高い「悪行税（Sin Tax）」が課されており、パブでビールを1杯（約0.5リットル）飲めば1,000円程度。例えば、夫婦二人でちょっとしたレストランに行き、何皿か頼み、ビールかワインを2杯ずつ飲めば税金などを含めて軽くS\$150（約13,500円）は財布から出て行くことになる。

また、不動産価格も高い。右肩上がりに上がっていたその価格もここ近年、落ち着いてきているようだが、建設中のコンドミニウム（日本で言うマンション）の看板を見ると、その分譲価格は郊外でも2LDKでS\$1,000,000（約9,000万円）は下らない。一軒家ともなると推して知るべしとなる。ちなみに、私が借りているコンドミニウムは中心地から離れた西部地区にあるのだが、そんなに広くない2LDKの部屋でも月S\$3,800（約34万円）の家賃を支払っている。

もっとも、物価が高いと感じるかどうかは、ライフスタイルに大きく左右されることは言うまでもない。高級コンドミニウムに住み、高級車を乗り回し、毎日のように高級レストランに行きワインを空け、日系デパート・スーパーで買い物...



などといったようなことをしていたらお金はいくらあっても足りない。

したがって、「平均的な」シンガポール人がすべて「世界で最も生活費の高い都市」の生活をおくっているわけではない。全く別と言っていいくらいの世界が存在する。世界主要都市の生活費について、シンガポール国立大学のアジア競争力研究所（ACI）が2014年に発表した別の調査結果がある。2005年から2012年までの109都市の生活費を外資系企業などで働く海外駐在員（専門職・管理職の外国人労働者）と平均的居住者に分け、それぞれのライフスタイルに応じて異なる消費財とサービスを用いて指数化したもので、それによると、シンガポールは海外駐在員がEIUと同じく1位となったものの、平均的居住者については60位であった。

他の主要都市はというと、海外駐在員と平均的居住者についてそれぞれ、ニューヨークは15位と12位、東京は3位と11位、香港は20位と58位などとなっている。この結果を見ると、シンガポールの海外駐在員と平均的居住者の順位の差は先進諸国としてはかなり大きいことが分かる。数年後には20人に1人がミリオネアになるとも言われている富める国シンガポール。豊かな者には豊かな者の世界、それ以外の者にはそれ以外の世界があるということの意味するとも読み取ることもできる

注) S\$ 1 = 90円で計算。

が、日々の生活の中でも、地元の人たちと同じような生活をすれば生活費はそれほどかからないことは強く感じることができる。

公共交通機関が発達し、タクシーも含めて安く利用できるのも、平均的居住者にとって車を買うことの優先順位は高くない。バスやMRTの初乗り運賃はS\$ 1（90円）前後。タクシーの運賃は徐々に値上げされているらしいが、日本に比べればまだまだ割安で初乗り運賃はS\$ 3（270円）程度である。また、公団住宅のHDBに住めば、高い家賃を払う必要もない。そして、シンガポール人はあまり自炊せず、三食とも外食や出来合いのものを購入ということが多いが、ホーカーセンター（屋台が集まるフードコート）ですませれば、1人S\$ 7（約600円）も払えば腹いっぱいになる。

シンガポールの人口は約540万人。そのうち、4分の1近くを占める外国人労働者の中でも、外資系企業などで専門職・管理職として働いている海外駐在員は一般的に、高額な給与をもらい、企業が車や住居などの費用の大部分を負担してくれる。私は就労許可の分類ではこのカテゴリーに入るのだが、そのような高額な給与や手厚い手当とは無縁の立場である。その一方で、完全に地元の人たちのような生活をすることはできない。したがって、夫婦で週に数回外食に出かけたり、日本の食品を買い求めたりするといった生活をおくった場合、「世界で最も生活費の高い都市」の現実が容赦なく襲ってくることになる。また、ここ最近では別の問題が起こっている。アベノミクスの金融緩和による円安・シンガポールドル高水準である。日本円で賃金を受け取っているため、シンガポール建てでは受け取る額が目減りしてしまう。物価に加えてさらに追い討ちをかけられるような辛い状況となっている。